

日本学術会議
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
海の学びカリキュラム小委員会（第25期・第4回）
議事要旨

日時 令和4年12月18日（日）18:00～20:10

会場 ビデオ会議にて開催

出席（小委員会委員）日置 光久（連携会員）、氷見山 幸夫（連携会員）、小川 博久、小澤 鷹弥、川真田 早苗、高倉 美帆、田中 隼人、辻 健、丹羽 淑博、
（参考人）天野 未知

議題

1)はじめに

- ・日置委員長より、今回の話題提供者である参考人の天野未知先生と委員の小川博久先生の紹介が行われた。
- ・氷見山連携会員より、翌月21日に開催されるワークショップについて説明があった。

2)話題提供①（参考人：天野未知先生）＋質疑応答

- ・「水族館におけるオンラインプログラムの開発と実践—楽しい学びのために—」と題し、水族館動物園におけるプログラム開発とその事例について報告がなされた。
- ・水族館動物園においては、実物を活用した能動的学びが強みであることが共有され、葛西臨海水族園では対象別の40以上のプログラムがあること、また小学校教員向けセミナーの紹介もされた。
- ・コロナ禍において、オンラインや動画を活用した授業や教材の発信がなされ、学びを続けられるような支援体制についての紹介があった。
- ・今後のポストコロナ時代においては、水族園の多様な利用・活用の仕方をさらに創造し、オンラインと直接体験の両方の効用を組み合わせることが重要であることが共有された。
- ・小澤委員より、今後の展望についての質問がなされ、天野氏よりリアルな体験が大切でありながら、オンラインでしかつながらることができない環境にある子どもたちの学びをどのように工夫できるかについて議論がなされた。
- ・小川委員より、学校連携の詳細について質問があり、天野氏より『環境教育活用ガイドブック』について紹介がなされ、プログラム構築の経緯について説明がなされた。
- ・氷見山委員より、SDG4などに対応することを明示することの重要性について話され、天野氏より職員のSDGs研修などの工夫がされていることが紹介された。関連して、日

置委員長より、「質の高さ」と「学びの深み」についての話がなされた。

3)話題提供②（委員：小川博久先生）＋質疑応答

- ・「アサリの 3D 模型を活用したカリキュラム開発—アサリから海の学びへ—」と題し、大学生への実践事例の紹介がなされた。3D 模型の特徴や中学校理科との連携可能性、さらに、生態系や海洋生物におけるマイクロプラスチックの影響などについても研究を続けていかれる旨の話がなされた。
- ・小澤委員より、所属するふなばし三番瀬環境学習館の取組の紹介がなされた。また、アサリ解剖図の細かな修正の指摘がなされた。
- ・川真田委員より、マイクロプラスチックが体内に残留することに学生の気づきがあったかどうかの質問があり、小川委員より、学生の感想からその気づきを捉えていたとの回答があった。また、模型の活用の仕方についての議論がなされた。
- ・氷見山委員より、学術と教育（現場）との関係性・連携が重要であることにかかわるコメントがあった。このコメントにかかわり、小澤委員からも子どもたちを研究の主役にしていくことが大切であること、また、辻委員より、発想の転換が重要であることへのコメントがあった。

4)その他

- ・次回の小委員会の実施日時については、改めて、幹事の嵩倉委員よりメンバーに連絡される。